

研究課題名：消化管 NET における GLUT2、MGMT、SSTR2 の発現に関する研究

1. 研究の対象

1980 年～2017 年 12 月までに、当院で膵、及び消化管神経内分泌腫瘍の手術を受けた方。年齢は手術時に 20 歳以上であることとし、病期、性別は問わない。

2. 研究目的・方法

2015.2 に膵・消化管神経内分泌腫瘍に対する抗腫瘍薬として本邦で発売になった STZ（ストレプトゾシン）の効能・効果は膵・消化管 NET であるが、海外においても臨床的に消化管 NET に対するエビデンスは少ない。STZ はグルコーストランスポーター 2(以下、「GLUT2」)を介して細胞内に取り込まれ、殺細胞効果を発揮すると考えられている。また STZ は DNA アルキル化剤であることから、DNA 複製を miscoding させ、細胞周期の G2/M 期に働き、腫瘍細胞のアポトーシスを促進することで作用を発揮する。従って、治療標的細胞での GLUT2 の発現動態、DNA 修飾を修復する酵素である MGMT 発現を調べることは、治療効果を予測する上で重要と考えられ、薬剤選択におけるバイオマーカーとなり得る可能性がある。また、神経内分泌腫瘍では近年ソマトスタチンアナログも治療に使用されているが、SSTR2 の発現と治療効果についての研究はあまりなされていない。今回の研究では、消化管 NET におけるこれらバイオマーカーの発現を観察する。上記対象症例において、Glut2, MGMT, SSTR2 の免疫組織化学的検討を行い腫瘍細胞における発現動態を確認し、膵臓と消化管における発現率の相違を検討する。

研究期間は（倫理委員会承認後）～2022 年 3 月

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：当院において膵切除、あるいは消化管切除（内視鏡的切除を含む）が行なわれ、神経内分泌腫瘍と診断された症例の病理組織検体の未染プレパラート標本

情報：年齢、性別、発生部位、組織型、病理学的 T 因子等

4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

東北大学病院 笹野公伸

愛知県がんセンター中央病院 鳥山和浩

関西電力病院 河本泉

野江病院 太田秀一

東京医科歯科大学 工藤篤

京都大学 増井俊彦

北海道大学 土川貴裕

ノーベルファーマ株式会社 山本浩之

帝人ファーマ株式会社 武田健治

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

宮城県立がんセンター 治験・臨床研究管理室 倫理審査委員会担当 寺島 貴之
〒981 - 1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山 47 の 1
TEL 022-384-3151 (代表) (内線 974)

研究責任者：

宮城県立がんセンター 病理診断科 佐藤郁郎

研究代表者：

東北大学医学系研究科病理診断学分野 笹野公伸